

# AERONCA

[ Japan Flying Association / J F A ]

since1953



## 日本飛行連盟の初代練習機 エアロンカ 7AC

日本飛行連盟のシンボルマーク、エアロンカ7ACは、自由に空を飛ぶための原点と言える存在の飛行機です。2人乗り、65馬力、自重322Kg、全備重量553Kgのこの機体は、巡航速度90MPH、失速速度は35MPHと、モーターグライダーのファルケよりも軽く、最近では、LSA(Light Sports Aircraft)として認定されるほどの存在です。とはいえ、エアロンカは正規の耐空証明を有する飛行機ですから、その気になれば、日本中どこへでも飛んで行くことが出来る、立派な飛行機です。

昭和36年に日本に登録され、昭和40年代にかけて日本飛行連盟の主力訓練機として運用されたエアロンカですが、やがて、セスナ150、パイパーチェロキー等の機体に置き換えられ、姿を消してしまうこととなります。操縦訓練の過程にジャイロ計器や、ADF,VORといった機材が必要となり、

それらを含む操縦教育の内容に対応できなかったこともありますが、当時は、操縦訓練の需要が急増した時期でもありましたから、新しい飛行機をそろえるなら、操縦が容易で使い勝手の良い前輪式の機体が選ばれるのは、時代の流れというべきなのでしょう。

残念ながら、現在、日本には、飛行可能なエアロンカは存在しません。また、陸上単発飛行機の技能証明を有している人でも、この尾輪式のエアロンカを飛ばすことが出来る人は、ごく限られることと思います。

このような純粋に飛ぶことを楽しむ機体を維持して飛ばすことができるようになれば、飛行機の楽しみの世界が広がると共に、この日本の小型機の世界の底上げにも役立つような気がしてなりません。可能であれば、ぜひ飛ばしてみたいと思う存在の機体です。

### TABLE OF CONTENTS

- 「日本飛行連盟の初代練習機エアロンカ」…………… P1
- 「赤十字飛行隊」…………… P2~3
- 「支隊紹介」…………… P4~5
- 「私のヘリSTORY」土屋 昌美…………… P6
- 「調布飛行場墜落事故の再発防止」奥貫 博…………… P7
- 「JFAサロン」…………… P8



# 赤十字飛行隊



**高橋 淳 赤十字飛行隊隊長より**

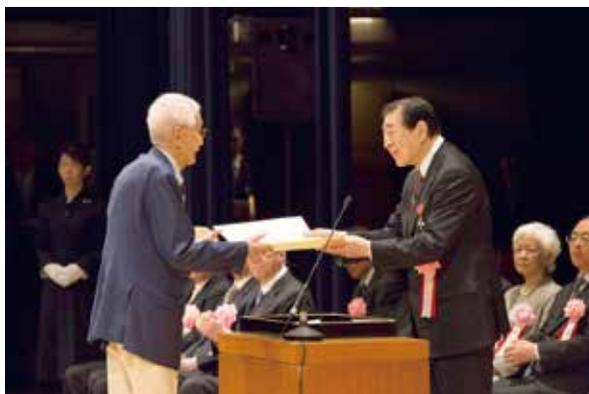
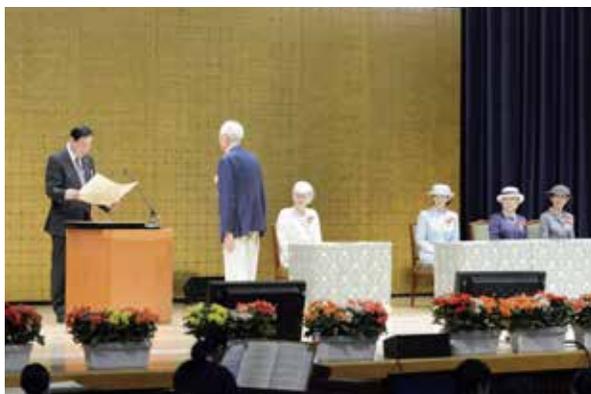
レジャーフライト。あまり天候がよくない。  
 ・・どうしよう!? は もうお天気に  
 負けています。止めましょう。

平成29年5月25日(木)

## 「平成29年度全国赤十字大会

～日本赤十字社創立140周年を迎えて～」明治神宮会館

名誉総裁皇后陛下及び名誉副総裁各妃殿下のご臨席のもと全国赤十字大会が開催されました。  
 大会では高橋隊長が壇上にあがり、日赤社長より長年の功労に対して社長表彰状が授与されました。



■授賞式の様子

### 今後の予定

#### ●群馬支隊

平成29年9月2日(土)  
 平成29年度群馬県総合防災訓練  
 (渋川市北橘総合グラウンド) 災害情報収集訓練

#### ●山形支隊

平成29年9月10日(日) 庄内空港フェスティバル  
 機体展示・展示飛行  
 平成29年9月24日(日) 山形空港フェスティバル  
 機体展示・展示飛行

#### ●参加各支隊

平成29年11月5日(日)  
 赤十字飛行隊と日本赤十字社の連携災害救護訓練  
 (八丈島) 物資、人員輸送訓練

#### ●茨城支隊

平成29年11月11日(土)  
 平成29年度茨城県・稲敷市総合防災訓練  
 被害状況把握、無線通信訓練

## 山形支隊結成式 平成29年6月16日(金)

4月18日付けで日赤本社より支隊設置が承認された「山形支隊」の結成式を日本赤十字社山形県支部のご協力を得て、山形ロジスティクス・センターにおいて執り行いました。結成式では県支部大泉事務局長より錦織支隊長へ設置承認書伝達、高橋淳赤十字飛行隊長からは支隊長委嘱

状が授与されました。錦織靖支隊長は「常に安全飛行のもと、飛行隊の名に恥じぬボランティア活動を行い、日赤県支部ははじめ地元関係機関との連携を推進し、災害時の救援体制づくりを目指していきたい。」と力強い抱負を述べられました。

### 出席者

山形県議会議員	吉村和武 氏	福島支隊、ふくしま飛行協会理事長	斎藤喜章 氏
山形県航空協会理事長	長岡敏昭 氏	福島支隊、ふくしま飛行協会副理事長、山形県航空協会副会長	猪口春生 氏
山形県航空協会会長	高橋和敏 氏	日本赤十字社山形県支部事務局長	大泉享子 氏
山形県航空協会理事	工藤 勉 氏	日本赤十字社山形県支部総務課長	柿崎寿宏 氏
山形県航空協会理事	安孫子善一 氏	日本赤十字社山形県支部事業推進課長	武田博昭 氏
山形県航空協会会員	丸山博之 氏	日赤山形県支部職員の皆様	



■集合写真

山形空港に駐機しているソカタTB9 と支隊長



福島支隊からは福島復興支援の活動をするオープンカー、FUKUSHIMAこども号も激励に駆けつけた



# 赤十字飛行隊支隊紹介

毎回、全国の各支隊を紹介しています。

## 群馬第2支隊(ヘリ)

文・写真／ 塙 光一

群馬県といえばやはり「かかあ天下と空っ風」。がんばり屋の女性と冬の北西風です。

冬の山間部のフライトは、かなりきびしいものがあります。そのほか有名なものは温泉でしょうか?草津温泉、水上温泉、伊香保温泉などなど・・・

温泉地にもヘリポートはありますが、群馬支隊の機体は、前橋市の西善ヘリポート、渋川市の赤城ヘリポート、中之条町の湯本ヘリポートにあります。残念ながら大西飛行場閉鎖の後は、飛行場は県内にはありません。

群馬支隊のルーツは平成18年11月に発足した和歌山支隊群馬分隊です。

田井和歌山支隊長ご指導のもと、日赤群馬県支部、日赤特殊奉仕団(無線奉仕団、接骨師奉仕団など)の皆様と交流・連携を密にし、日赤の各種講習会や防災訓練に参加しながら活動の輪を広げ、平成20年に正式に群馬第2支隊として発足しました。現在5機のヘリコプター(R22、R44、R66、EC120、AS350)と7名の操縦士(2名は特定操縦技能審査員)、地上の運航支援組織で活動しています。

### 1. 技量維持・向上

群馬県総合防災訓練、県内各市町村の防災訓練、日赤主催各種訓練、連携各団体との連携訓練など毎年数多くの訓練参加により運航方法、災害時の対応方法等について日頃より確認しています。



■防災訓練の様子

### 2. 行政機関との連携

群馬県危機管理室、群馬県環境森林部、前橋市危機管理室、渋川市防災安全課等と協定を結び、災害対応の連携体制を構築しています。



■塙光一支隊長と群馬県知事(右)



■前橋市長(右)と

### 3. 報道機関との連携

群馬テレビや地元FM局と協定を結び、災害時に情報共有できるよう訓練を実施しています。

## 4. 場外離着陸場の確保

過去の災害対応の教訓から場外離着陸場確保の重要性を痛感し、場外離着陸場情報の管理・申請等は赤十字飛行隊群馬支隊で一括して行なっています。さらに日本動物園水族館協会と連携し、全国100箇所以上の場外離着陸場候補地を確保しています。



■臨時離発着場

## 5. 運航支援組織の設立

平成20年に操縦士、操縦教官、航空整備士、航空無線技士等の有資格者による地上支援部隊を日赤群馬県支部に所属する群馬県赤十字飛行隊支援奉仕団として設立。現在26名登録されています。



■群馬県赤十字飛行隊支援奉仕団 集合写真

## 6. 赤十字活動の啓蒙

防災訓練会場近隣の住民や幼稚園児を対象に機体の見学や赤十字活動の紹介、献血PR等を行っています。



■赤十字活動の様子

スナップ  
Shot!



埴 光一 支隊長



中澤 敦 副支隊長



湯本 正一 隊員



小野田 明範 隊員



佐藤 仁 隊員



目黒 貴憲 隊員



角張 智之 隊員

私の

## ヘリSTORY



社会福祉法人 瑞宝会  
プロテクターヘリ運航部機長

## 土屋 昌美

わたしが初めてヘリコプターの乗ったのは18歳の時です。航空関係の仕事に就きたいとずっと思っていました。それまでは正直、一度もヘリに興味を持ったことがありませんでした。

受験を控えていた高校の時、大学の授業と並行して操縦訓練を行っている大学を知ったのをきっかけに約3年で事業用操縦士及び航空通信士を取得しました。まったくの知識もないまま飛び込んだ世界は輝かしいものとたくさんの不安や挫折がありました。

初めて乗ったヘリはロビンソンR22。風防も広く、正直「死ぬ!」と思いましたが、5分もたてば清々しい気持ちと、早く操縦したい気持ちが高まりました。

操縦訓練がはじまり、なにひとつ知識もないわたしは段々ついていけなくなり、全てが上手くいかなくなりました。自分は向いてないのだと、逃げ出そうとしたこともありました。周りの方々に助けてもらったおかげで自信をもてるようになりました。

ヘリコプターの操縦は気持ちが反映します。フライト前には天候や航空情報、プランの提出等、ただフライトするだけでなく確認事項がたくさんあります。運航が続くと疲れも出て、いつもの操縦ではなくなってしまうことがあるかもしれませんが、女性であることの困難を乗り越えて、男性の多い航空業界の中にあっても決してあせることなく1フライトずつ楽しみながら飛び続けようと思っています。

現在わたしは、社会福祉法人 瑞宝会 でプロテクターヘリ運航部の機長としてR66タービン機で運航を行っています。業務内容として、移送・搜索・保護・更生支援事業に従事している他に、月に数回、職員や施設利用者の方々や地元の高齢者の方、そしてお子様方にも無料で体験フライトを致しております。1人でも多くの方々に空の魅力を感じていただき、ヘリコプターの楽しさを感じて頂きたいです。



R66タービン機と一緒に

# 調布飛行場墜落事故の再発防止

奥貫 博

平成26年7月26日(日)、個人所属のパイパー PA46-350P型JA4060は、調布飛行場滑走路17から離陸した直後の10時58分頃、滑走路末端から約770mの調布市富士見町の住宅に墜落し、住民1名が死亡、住民2名が軽傷、機長及び同乗者1名が死亡、同乗者3名が重傷を負い、また、この墜落地点の住宅が全焼した他、周辺の住宅等も、火災等による被害を受けました。

以来2年を経た平成29年7月18日に、事故調査報告書が公表になりました。この事故の後、旅客輸送及び使用事業の運航は、安全の確認を経て、運航が再開されていますが、自家用機については、事故の原因が究明され、再発防止策が図られたことが確認できるまで運航自粛を要請として現在に至っています。

自家用機の運航に関わる全ての人及び組織等は、この調査報告書に述べられた、以下の推定原因及び勧告の内容を真摯に受け止め、事故の再発防止を図ることが必要です。

## 事故の推定原因(概要)

離陸上昇中、速度低下により、失速し墜落。

### ○速度低下の要因

#### 1. 最大離陸重量超過

最大離陸重量1950kgを58kg超過

#### 2. 低速での離陸

標準手順の78ktに対し、73ktで離陸

#### 3. 過度な機首上げ姿勢の継続

○尚、飛行解析からは、エンジン出力低下の可能性が示されていますが、エンジン調査で不具合の発生は明らかにされていません。

## 再発防止のための勧告(概要)

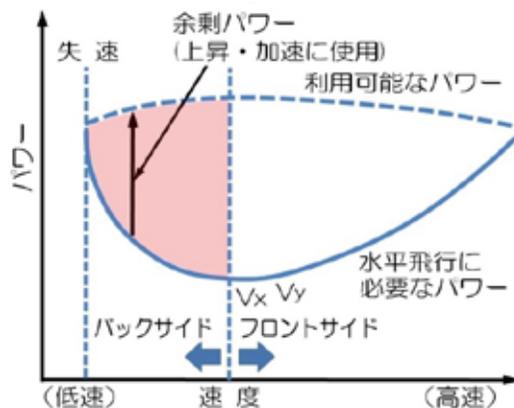
### ○自家用航空機の操縦士に対して

1. 飛行前に最大離陸重量等を遵守する重要性に加えて、性能上の要件を満たしていることを確認する重要性の理解促進。

2. 飛行規程に規定された速度及び手順の遵守とともに、性能低下が発生した時の対処方法の確認について指導強化

### ○空港の設置・管理者に対して

滑走路長を最大限に利用するための方法の周知徹底



■低速域における必要パワー増大の状況

事故の推定原因として、最大離陸重量超過、離陸速度不足及び、不適切な機首上げ姿勢と、後方限界に近い重心位置の関与が指摘されています。上の図にありますように必要パワー最小の速度以下では、機首を引き上げると、抗力が増大して降下になってしまい、高度維持にはパワーの増加が必要となります。このような領域を避け、飛行安全確保のため、飛行規程の速度と手順は厳守が必要です。

また、気温や重量に応じた性能値等についても、確実な把握が必要です。事故機の場合、全備重量で、当日の気温、風、及び、フラップの位置では、800mの滑走路長に対し、地上滑走は約680mになります。余裕は多くありませんので、飛行規程に記載された速度と手順の遵守と共に、離陸時に加速不足又は速度の減少等の飛行性能の低下が発生した場合に備えて飛行規程の非常操作手順に従うことも含め、常日頃から対処法を考えておき、出発前の確認事項と共に、準備時に操縦士自身がセルフブリーフィングを行ってこれらの対処方法を確認しておくことが必要です。

これらについては、特定操縦技能審査、航空安全講習会等の機会を利用し、全員に再教育を行うことによる、周知徹底が必要です。

また、勧告では離陸滑走路長の最大限の利用によって安全性の向上が得られるとされています。調布飛行場には、以前滑走路であった200mの部分がありますので、この有効利用による安全確保の実現が期待されます。



## ●年間スケジュール

## Schedule

日時	内容	会場
10月7日(土)	赤十字飛行隊富士川集合訓練(予備日11/4)	富士川滑空場
10月22日(日)	府中市防災訓練	府中市内3会場
11月3日(金・祝)	入間基地祭	航空自衛隊 入間基地
11月18日(土)	赤十字飛行隊全国支隊長研修	日本赤十字社101会議室
11月23日(木・祝)	立川基地防災航空祭	陸上自衛隊 立川駐屯地

## ●日本飛行連盟の飛行場

## Airport

### 大利根飛行場

茨城県稲敷郡河内町・利根川河川敷

雨続きの8月。晴れ間を狙っては試験飛行に完熟訓練と忙しい日々でした。秋は台風が気になる季節、晴天だけ続いて欲しい大利根です。

### 三保飛行場

静岡県静岡市清水区三保・三保半島

見た目はガラんとした寂しい飛行場ですが、Dr.ヘリの緊急搬送や消防ヘリの訓練、無人機試験飛行などで、実はそれなりにパワーを発揮しています。

## 航空科学博物館

住所: 千葉県山武郡芝山町岩山111-3

TEL: 0479-78-0557

ホームページ

<http://www.aeromuseum.or.jp>

### イベント

#### ●航空ジャンク市

9月9日(土)~10日(日)

#### ●ANAグランドハンドリング教室

10月8日(日)

### 企画展

#### ●「航空×空気×気象 ～天気のみしぎを科学する～」

10月29日(日)まで

## 『緑十字機 決死の飛行』 著: 岡部 英一

本当の危機は8月16日から始まった・・・。

太平洋戦争を終結に導いた決死の飛行。日本政府、GHQから公表されなかった不時着の事実。

一昨年ご紹介した「緑十字機の記録」が加筆、再編集を行い70頁増となりました。タイトルも「緑十字機 決死の飛行」と改称。以前は手売りでしたが、全国書店、インターネットで購入可能となりました。

価格: 2,300円+消費税 発売元: 静岡新聞社

